「生き方としての体育Taiiku」：身体運動あるWell-Beingへ向けて

林　洋輔[1]

[1] 大阪教育大学教育学部保健体育部門

e-mail: qqfs3s79@bridge.ocn.ne.jp

【序論】

◎**研究の背景**

人間の身体運動（身体活動）を学際的に探求する「体育学Study of Taiiku」において、その「倫理・道徳基盤」を検討する議論の道筋が拓かれている。体育学は教育を射程に含めた「身体運動する人間」を研究対象とするが、どのような人間の創造と価値の実現を目指しているのか。研究成果の先の「体育学の期する人間の実質とその思想基盤」が何であるのかがいま問われている。

1. Hayashi（2021）が改めて示したように、体育学は「人間の幸福（Well-Being）」に対する身体的・社会的基盤づくりを推進する学問である。他方、体育学の研究成果により創られる人間はどのような倫理・道徳基盤、いわばどのような人間の「生き方」を底支えする学問であるのか。体育学の研究を通じて期される人間の在り方、そして是とする人間像への関心が近年の議論で深まりを見せている。

◎**研究の意義:**

1. これまで体育学における倫理・道徳分野の研究についてはスポーツ倫理学分野の「アンチ・ドーピング」研究、また同分野の「スポーツ・インテグリティ」研究、また体育授業における道徳指導の在り方が主に問題とされてきた
2. 日本学術会議提言（2008,2011,2017,2020）においても体育学の研究成果が道徳面に及ぼす影響については殆ど論及の対象とされた歴史を確認できない
3. 「体育学の成果が期する人間の実質」あるいは「体育学が推奨する人間の生き方」に踏み込む研究は未踏の検討課題であり、体育学における倫理・道徳に係る議論に新たな地平を拓く

◎**問題の設定：**

1. 体育学の研究対象とする人間像の実質とは何か。その人間はどのような思想に基礎づけられているか

【1.「身体の善さ」の探求】

深代（2000）、重松ら（2018）による競技スポーツ科学ならびに健康科学分野の研究、黒須・水上（2019）など社会科学分野の研究、さらに林（2015)による人文科学研究など、体育学は身体活動する人間における勝利・健康・改善・解明・解決・上達・修得などの価値の実現を目指して人間における「身体の卓越性（善さ）」を探求する

【結論と今後の課題】

体育学は「身体の卓越性（善さ）」の研究を介して価値の実現を図る。その価値の実現を期す人間は「完成主義Perfectionism」そして「精神の修練Spiritual Exercise」の思想に基礎づけられている。さらに「身体活動ある幸福Well-being on Physical Activity」の実現を求めるとともに、この「身体活動ある幸福Well-being on Physical Activity」の実質解明が以後の課題として現れた。

1. 「体育学Study of Taiiku」は身体活動する人間が「勝利・健康・改善・上達などの価値の獲得（実現）を目指しており、その過程で探求されるのは「身体の卓越性（善さ）」である
2. 体育学は研究対象とする人間のうちに「完成主義Perfectionism」そして「精神の修練Spiritual Exercise」の思想基盤を見込む
3. 体育学が研究対象とする人間は、「身体運動ある幸福Well-being on physical Activity」の実現を最終目標として据えており、その実質解明が以後の課題として立ち現れる

【2.完成主義Perfectionismへの隘路？】

体育学は研究対象とする人間のうちに「完成主義Perfectionism」とりわけ「精神の修練Spiritual Exercise」の発露を見込む。

体育学が人間を研究対象として据える際、その人間にはDavidson(2016), Hadot(1995, 2004)に見られるような「次の自己The next self」を目指す人間が想定されている。現状を常に超出して「よりよく生きる」ことを是とする人間を体育学は学術研究によって支える。

【3. 体育学Study of Taiikuの研究目的？】

「身体の卓越性（善さ）」の研究を介して価値の実現に至ろうとする体育学は、その究極目的に「身体活動ある幸福Well-Being on Physical Activity」を期し、その実質を究めることが以後の検討課題として位置づく

体育学は身体活動する人間の「充実（存在の充足）」を目指す。その究極としての身体活動を伴ったいわゆるWell-Beingの実質を問う作業が向後の課題として残される。「完成主義Perfectionism」そして「精神の修練Spiritual Exercise」に基づくWell-Beingの実質究明が次なる課題として位置づけられる。

【謝辞】

本研究は令和四年度大阪教育大学「若手教員等研究助成経費（一般研究助成）」の支援を受けて行われました。記して厚く御礼申し上げます。